

パウロの祈り その二 ピリピ1: 9-11

今朝も引き続き、祈りについて学びます。これまでで多くのことを学ぶことができました。弟子の祈りから、次のようなことがわかりました。

1. 神を父と呼んで語り合う前に、私たちは神と一対一のつながりを持たなければなりません。
2. 神の御名は聖なる御名であり、神に語りかける際に、その御名に敬意を持たなければなりません。神の御前に出て祈れることは特権であることを覚えておく必要があります。それが可能になったのは、私たちが犯した罪の罰をイエスが受けてくださったからです。祈るたびに、救いの代償を心に留めなければなりません。
ですから、祈る時はまず神をたたえ、神の御業をたたえます。聖書に登場する神の名を知ること、祈りに役立ちます。
3. 私たちは、日常のニーズについて祈ることが許されています。神は、私たちの欲しいものではなく必要なものを与えてくださいます。その違いを見分けるのは私たちの役目です。神は、その日のニーズに応じてくださるので、前もってそのニーズに応じてくださることを期待するべきではありません。
4. 祈るとき、大切なのは「赦し」です。私たちは「赦された」者ですから、人を「赦す」心構えが必要です。
5. クリスマンとして生きていれば必ず「誘惑」に遭いますが、私たちは誘惑に勝つことができます。サタンは私たちの思考を攻撃するので、私たちは考えや思いをキリストに従わせてキリストのものとしなければなりません。
6. 最後に弟子の祈りで学んだのは、神に感謝をささげ、神をたたえるのは、祈りの締めくくりとしてふさわしいということです。

二週間前、教会全体がひとつになって祈ることがさまざまな理由からとても大切であることを学びました。使徒の働きの4カ所のみことばを学び、忙しすぎて教会の一致の祈りに参加できないという状態になってはいけないことがわかりました。皆がひとつになって祈ると、初代教会では驚くような結果が見られました。同じことが OIC でも起こり得ます。

先週、私たちは新約聖書のパウロの祈りを検証し、OIC の教会生活の中で祈るべき内容について学びました。

まず、コロサイの信徒たちのためのパウロの祈りから学んだことは、私たちの生き方がイエス・キリストを喜ばせるものとなるように祈らなければならないことです。

そこで、イエスに喜ばれる生き方の4つの特徴を挙げました。

1. 何らかの形でイエスに仕え、実を結ぶ生き方。
2. 神の知識において継続的に成長している。
3. 苦しみの中で、神によって力づけられている。
4. すべてにおいて喜び、感謝をささげる人となる。

今朝は、パウロが祈ったもうひとつの祈りを見ていきたいと思えます。この祈りは、ピリピ1: 9-11に登場します。

まず、1:1-11を読みましょう。

1:1 キリスト・イエスのしもべであるパウロとテモテから、ピリピにいるキリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、また監督と執事たちへ。 1:2 どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。 1:3 私は、あなたがたのことを思うごとに私の神に感謝し、 1:4 あなたがたすべてのために祈るごとに、いつも喜びをもって祈り、 1:5 あなたがたが、最初の日から今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝しています。 1:6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。 1:7 私があなたがたすべてについてこのように考えるのは正しいのです。あなたがたはみな、私が投獄されているときも、福音を弁明し立証しているときも、私とともに恵みにあずかった人々であり、私は、そのようなあなたがたを、心に覚えているからです。 1:8 私が、キリスト・イエスの愛の心をもって、どんなにあなたがたすべてを慕っているか、そのあかしをしてくださるのは神です。 1:9 私は祈っています。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、 1:10 あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく、 1:11 イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現されますように。

導入

パウロは、二度目の宣教旅行中にピリピの教会を開拓しました。パウロとシラスは、ビテニヤに行かないようにと聖霊によってはっきり示され、幻の中でマケドニヤに行くよう導かれました。

ローマ帝国の主要な植民都市であったこの場所に、ヨーロッパで最初の教会が生まれました。

この教会は、パウロも尊重する良い教会だったようです。彼らは何度もパウロのニーズに応じました。パウロは投獄中のつらい状況でしたが、この小さな教会の群れに手紙を書いて励ましました。

パウロが気にかけていることのひとつは、教会に分裂が起こっていることでした。彼はその問題に対処したいと考えていました。しかし今朝は、パウロがこの教会の信徒たちのために祈った祈りに焦点を当てたいと思います。

このパウロの祈りは、霊的に渴いて信仰を失いそうな状態に対応するための祈りであったかもしれませんが。私たちも祈らないことに言い訳をしがちですが、この祈りがそれを乗り越えさせてくれるでしょう。とても短い祈りですが、掘り下げれば深い意味が込められています。

この祈りを3つの部分に分けて見ていきましょう。

パウロはまず、信徒たちの生き方がすぐれたものとなるように祈ります。(9-10a節)

パウロは9節で、信徒たちの愛が知識とあらゆる識別力によってますます豊かになるようにと祈ります。しかし、その続きを読むと、パウロが祈り求める愛はそれ自体が最終目標ではなく、最終目標を達成する手段だということがわかります。

パウロは、ピリピの信徒たちの愛が増すように祈るのは、優れたものを見分けられるようになるためだと信徒たちに語ります。

ここで確かなことは、教会が今の状態に満足するのをパウロは喜んでいないということです。教会はすぐれたものを目指して常に前進しているべきだというのがパウロの考えです。

すぐれたものはインターネットで買えるものでも、ある日突然むこうからやって来るものでもないことをパウロは知っていました。それは見分けなければならないものです。

では、パウロが祈るすぐれたものとは何でしょう。

答えは常にみことばの中にあります。

パウロはまず、ピリピの信徒たちがすぐれた最善のものを見分けたいなら、彼らの愛が知識と識別力によって豊かにならなければならないと言います。

こういうわけで、パウロは愛を祈り求めたのです。パウロが信徒たちに求めるすぐれたものは、簡単に見分けられるものではありません。すぐれたものを見分けるには、豊かな愛をとおして見出さなければならないということでしょうか。

皆さん、クリスチャンの愛がおわかりでしょう。けれども、知識と識別力のないクリスチャンの愛とはどのようなものでしょう。

知識と識別力のないクリスチャンの愛に目を向ければ、その様子がよくわかります。

アメリカやイギリスの多くの教会は、男性同士あるいは女性同士の同性婚を認めています。すべての人を愛して、彼らにクリスチャンの愛を示すべきだというのが彼らの言い分です。これは、聖書の知識やあらゆる識別力に欠ける愛です。

お分かりのように、クリスチャンの中に愛をまったく誤解している人がいます。このように誤った認識の愛は、神が聖書に示された愛とは似ても似つかないものです。愛について考えるとき、人情に流されて何でも受け入れてしまいがちですが、それは愛ではありません。

罪を肯定する愛は、神の愛ではないからです。

パウロが祈り求める愛は、神の目に正しいものを見極めて認める愛です。

次に、パウロは新改訳で「すぐれたものを見分ける」、新共同訳で「本当に重要なことを見分けられる」と言います。

パウロがここで言っているのは、生きていればあらゆる決断や選択を迫られ、その内容が必ずしも正解か不正解かを選ぶという簡単なものではないということです。同性婚の問題なら、これが間違っていると判断するのは簡単です。しかし、そう簡単には判断できない問題がいろいろあります。

そのような場合に、深い洞察と知識と識別力が必要になります。

すぐれたものを見極めて認識するには、このような愛が私たちのうちにさらに豊かにならなければならないとパウロは言っているわけです。

「すぐれたもの」「本当に重要なこと」が何かを理解するのにもうひとつヒントがあります。

6節を見てみましょう。

1:6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。

弟子としての訓練によってよりよい者にされていく姿を見たいとパウロは言っています。

信徒たちが今のままでいるのをパウロは喜びません。弟子として訓練されて霊的に成長することを彼は望んでいます。

後に3章10-14節で、パウロは自分自身も成長と発展を必要とする弟子のひとりに数えています。

3:10 私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、**3:11** どうかして、死者の中からの復活に達したいのです。**3:12** 私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして、追求しているのです。そして、それを得るようとキリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。**3:13** 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕らえたなどと考えてはいません。ただ、こ

の一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、**3:14** キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。

成熟した弟子に育っていくには、みことばの知識と識別力をとおして、イエスの復活の力である聖霊の助けを得て、イエスの愛が私たちのうちに育たなければならないことがわかりました。

また、苦しみにおいてもイエス・キリストとひとつとなる覚悟が必要です。これはなかなか受け入れがたいことです。

キリストの苦しみにおいてもひとつとされることはクリスチャン人生の一部だということを、多くのクリスチャンがなかなか納得できないでいます。

一方、どのような苦しみも味わわずにクリスチャンとして成長、成熟することはありません。

悩みや苦しみを乗り越えるのは簡単ではありません。しかし、苦しむときにこそ、私たちはイエスに近づき、イエスから力をいただくことができます。

では、**11節**に進みましょう。

聖書を読むと、「キリストの日」と「義の実に満たされ」という部分の間に読点があります。これはすべて、パウロがピリピの信徒たちのために祈っている内容です。

義の実に満たされるとはどういう意味でしょう。

まず、ガラテヤ**5：22-23**を読みましょう。

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、**5:23** 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。

パウロは、聖霊によって歩んでいると当然このような性質が生み出されると言います。実を結ぶのは、私たちの内に聖霊が働かれた結果です。自然ではなく超自然の結果であり、「霊に満たされた」生き方から生まれるものです。

神のいのちが私たちのうちに、そして私たちをとおして働かれるのです。聖霊なしには不可能です。

イエスの愛が知識とあらゆる識別力においてますます豊かになれば、私たちは成長して成熟した弟子となり、神の栄光のために実を实らせるとパウロは言います。また、私たちのうちに神が働かれて実を結ばせることもわかるはずだと言います。

これは、自分自身のためにも、**OIC** のお互いのためにも祈るべきすばらしい内容です。

今日の祈りの時間、ぜひこのように祈りましょう。このような祈りに神が応えてくださるのを体験できたらどれほどすばらしいでしょう。

木が良ければ自然と実がなることを覚えておきましょう。木そのものが健康なら、木は多くの実をつけます。ですから、私たちも霊的に健康であるよう気をつけなければなりません。神の栄光のために多くの実を結ぶためです。

神のみことばに従い、祈りの中で神の御前に出ましょう。聖霊によって私たちを変えてくださる神の働きを受け入れましょう。

私たちのうちに神の働きがなされるように祈らなければなりません。

ピリピ**2：13**を読みましょう。

ピリ 2:13 神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。

私たちのうちに神が働かれる必要があることははっきりしています。私たちの心の中に「リバイバル」が来ることを祈るようなものです。

最後に、パウロは「神の御栄えと誉れが現されますように。」という言葉でこの祈りを締めくくります。

パウロは祈りの最後に注意を促します。神が私たちのうちに、そして私たちをとおして働かれるとき、私たちの人生に成された御業を覚えて、神にすべての賛美と栄光をおささげするよう心しなければなりませんと言います。

マーティン・ロイドジョンズは、長い間イギリスの有名な説教者でした。私も、メッセージの録音テープを何度も聞いたことがあります。

ロイドジョンズ師が亡くなる数週間前、実り多い長年の働きを終えて今どんな気持かと尋ねる人がありました。そのときの彼は、ベッドから起き上がって椅子に座るのもやっとの状態でした。

彼はルカ10：20のみことばからこう答えました。

「悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではなりません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」

つまり、働きの勢力と喜びや幸福を結び付けてはいけないということです。

働きは取り去られるかもしれません。

神に知られ、愛されているという事実こそ、喜びの源です。喜ぶべきことは私たちの救いです。

あなたの名が天に記されているという真実を喜びましょう。

誰もそれをあなたから奪うことはできないからです。

マーティン・ロイドジョンズは、「とても満足です」と答えました。

働きがどれほど祝福されても、私たちをとおして神が働いておられることを忘れないようにしましょう。賛美と栄光を受けるのは神です。すべてが終わったら、私たちは天国に行けます。それが私たちの報いです。

みんなで祈りましょう。

- OIC のクリスチャンの生き方がすぐれたものとなるように。
- 私たちのうちにイエスの愛が育ち、識別力と神のみことばの知識によってこのことが達成されるように。
- 神の義の実が私たちの生き方に現れるように。
- 私たちをとおして神が働かれるときに、私たちが神にすべての栄光をささげるように。